

【はじめに】

私には二つの故郷があります。生まれ故郷である札幌市と、育ちの故郷であるカナダのバンクーバー市です。生まれの故郷である札幌市は、自然と都市が調和し、四季折々の美しい景観と日本全国から集まった多様な文化が交錯するまちです。そしてバンクーバー市も、海と山に囲まれ、緑豊かで多人数種が住み暮らすまちとして世界的に知られています。この二つの都市には、多くの共通点がありますが、その中でも自然環境に恵まれているということ、多様性を尊重する文化が根付いているということが第一にあげられます。バンクーバー市はまちとしては新しく、フランスやイギリスを筆頭に世界中から人が集まってできた場所です。そのため人種・宗教問わずどんな人でも温かく迎え入れてくれる都市です。そしてそれは札幌にも同じことがいえ、この二つの環境での生活が私に多様な文化を受け入れられる柔軟な思考と豊かな価値観を育んでくれました。

このような多様な価値観を享受できる一方、私たちが生きる現代社会には新たな課題にも直面しております。デジタルの発展により、世界中の情報をどこにいても手に入れることができるようになりました。SNS の普及により、誰もが自身の日常や思いをリアルタイムで世界中に発信・共有できるようになりました。その反面、フェイクニュースやインターネットを介したいじめなどが横行し、何を信じればいいのかわからない世の中になりつつあることを常々懸念しております。自分の価値観を他人からの評価にゆだねる、いつのまにか自己をもちづらい時代になってしまったのかもしれない。

私たちは、このような現状を乗り越えるため、自分自身のアイデンティティと信念を再確認する必要があります。215 年続いた鎖国に終止符を打ち、新しい国家体制の構築に寄与した坂本竜馬や、五洲第一の都を築くため、大きな志をもち極寒の地を開拓した島義勇など、揺るがない信念をもつ一人の人間の勇氣ある行動により時代は動いてきました。他人がどう評価するかではなく、自分のやるべきことをしっかり理解し、真摯に向き合い行動していく姿こそが日本人が古くからもつアイデンティティなのではないでしょうか。確固たるアイデンティティを確立し、今こそ JC 運動を通じて新たな価値観を学び、この激動の時代に新たな可能性を広げてまいりましょう。それは我々 JAYCEE としての使命であり、この使命に情熱を注ぎ、仲間と共働し、素晴らしい未来への一步を踏み出してまいりましょう。

【全国大会主管から 5 年を経て】

2015 年に札幌青年会議所は一つの大きな決断をし、2019 年度の全国大会の主管 LOM として立候補しました。残念ながら 2016 年度に 2019 年度の主管当選には届かなかったものの、先輩諸氏はあきらめることなく再度挑戦し、2020 年度の主管を見事獲得しました。「キセキ」をテーマのもと、2020 年 9 月 24 日から 27 日の 4 日間にわたって開催予定だった第 69 回全

国大会北海道札幌大会は、新型コロナウイルスの影響により、札幌の地に集まったの開催は断念しました。しかし、全国の各地青年会議所メンバーの協力により 69 年間の青年会議所の歴史では初の試みとなる完全 Web 開催にて実施に踏み切りました。いかなる状況下でも決してあきらめることなく目的に突き進む姿勢を見せることがコロナ禍で苦しむ人々に勇気と元気を与えられると信じ準備が進められた結果、全国すべての LOM からの大会登録を得るという快挙が成し遂げられ、無事オンラインにて大会が開催されました。全国大会主管から 5 年目という節目を機に、この大会の構築に携わっていただいた多くの皆様に対し、オンラインでは伝えきれなかった札幌や北海道の魅力を伝えるとともに、我々札幌青年会議所の運動が札幌の未来へとつながっていく明確なビジョンを示してまいります。

【勇気をもって踏み出す理想への挑戦】

1990 年代以降、国際化が急速に進展する中で、国際競争が激化しており、経済のグローバル化への対応が都市レベルでも求められる時代になっています。札幌は北海道における商圏の中心であり、良質な食材や資源、サービスや技術が集まる場でもありながらも、縮小する地域市場の中で先行きを見通すことが困難な企業が沢山存在します。世界に目を向ければ根強い需要が存在する中、海外との活発な交流が再開しつつある今こそ、私たちは日本をリードできるような持続的なビジネスを推進しなければなりません。さらには、国際感覚をもった次世代の育成も積極的に行っていく必要があります。外国人と接することが苦手、海外渡航に対して不安を抱いてしまうのは経験不足からくるものであり、幼少期に多くの海外交流を行うことがグローバル人材の育成にとって最も重要な経験です。我々青年会議所は国際組織であり、世界中にメンバーが存在しております。そして札幌青年会議所は多数の LOM と姉妹締結を結んでおり、多くの先輩諸兄姉が、この身近な国際交流を通して、自己成長の機会を得てきました。これからも、彼らとの交流を絶やさぬよう継続し、より発展的な関係を模索していくことが、札幌青年会議所にとって国際的な成長を遂げるきっかけとなります。加えて ASPAC や世界会議といった国際交流の機会を、メンバーと共有し、さらなる組織と個人の成長へとつなげていきます。

【多様な価値観を受け入れるまち】

青年会議所は社会の課題に向き合い、解決に向けて多種多様な意見を出し合う場所です。そして多様な市民が住み暮らす札幌で運動を展開するには多角的な視点が必要です。多角的な視点があれば、様々な発想や独自の観点、そのひとの経験や知見が加わり、今までになかった新しい運動の展開や時代に即した社会課題の解決が期待できます。

現在 200 名近くの魅力ある多種多様なメンバーが札幌青年会議所に在籍し、まちの課題を追及して運動を展開してきました。しかし、札幌青年会議所は 2024 年度において、正会員 195 名中女性会員は 13 名と、その比率は約 7%と日本青年会議所における 2024 年度の女性メンバーの平均 11%の約 6 割となっております。大阪や名古屋、東京などの大規模 LOM

を見渡しても、女性会員は全体の約2割となっています。

多様性の推進は組織のさらなる発展のためにも喫緊の課題として早急に取り組む必要があります。まず私たちが札幌青年会議所の魅力を理解し、その魅力を広く市民に理解していただくことを意識してまいりましょう。運動、活動を発信する手法は様々あります。その手法を精査し、発信の質を高めることは不可欠です。これまで活用したホームページやポスター、SNSのあり方にも新たな可能性を探り、魅力を伝えることで、志を同じくする者の裾野を広げられるようチャレンジしてまいりましょう。

【地域の未来を支えるデジタル人材の育成】

急速に発展、成長を遂げるデジタルの世界にどれだけのメンバーが順応できているでしょうか。特に人工知能の分野では日々進化を遂げ、インターネットで情報を検索する時代から、AIに仕事を任せる時代に突入しています。それにより今まで専門家に対価を支払って依頼していた業務が、無料、もしくは安価で同レベルのクオリティを再現できるレベルに迫ってきています。自動運転、3Dプリンター、人型ロボットなど過去SF映画の中で描写されていた未来の姿が現実に具現化されています。業務の効率化と人材の流動性が求められる中、経営者であってもプレーヤーであってもデジタルリテラシーを高め、効率化の波に乗ることは責務です。デジタルリテラシーなくしては経営が成り立たないという社会が間近に迫った今、我々JAYCEEに求められているスキルとは何なのだろうか。我々が率先してそのスキルを身に付けることで、社会はさらなる発展を遂げ、そこに住む札幌市民はより安住した生活を送れるのではないのでしょうか。

【地域とともに創る子どもの未来】

日本人は他国と比べると自己肯定感が低く、13歳から29歳の若者の約4割が自分に自信がもてていないというデータがあります。日本はひと昔前まで、「いい大学を出て、いい会社に就職することが良し」という風潮がありました。時代の流れとともに働き方やライフスタイルの多様化が進み、このような風潮は薄れてきてはいますが、管理型の一斉授業、偏差値重視の学校教育や教育環境については戦後からほとんど変わっておりません。日本の伝統的な文化では、調和や集団を重んじる傾向が強く、自己主張を控えることが美徳とされてきました。しかし、グローバル化が進み、多種多様な価値観との関わりが増えた昨今、自己主張ができないことで、他者の価値観を十分に知ることはおろか、自らの価値観を批評にさらして他者からの刺激を受けることもできず、様々な場面における機会を失うことにつながります。これは、自意識過剰になるということではなく、他者を尊重しながらも、主体性をもって何事にもチャレンジできる大人に成長してほしいという願いです。豊かな自己表現をもって他者とかかわることは、自分の価値観を他者に見てもらい自分の価値観を深化させることにつながります。未来の主演である子どもたちが自己肯定感を育むために、様々な交流や学び、気づき、そして子どもたち同士が自ら考え、成長できる環境を構築してい

ましよう。

【札幌青年会議所のプレゼンスの発信】

札幌青年会議所は国内においても日本有数の人数規模を誇る組織です。日本青年会議所をはじめ、各所に多くの出向者を輩出し、外からの景色を見た人財が豊富にいます。しかし、どれだけ素晴らしい個性を備えた人財がいようと、内外に亘る有機的な交流がなければ、個の力を発揮するだけであり、組織の力とはなり得ません。内外の交流の仕組みを強化し、個と個が結びつくことが人の成長につながり、そして組織の成長へと結びついていくのです。

メンバー間の交流を促進することは、メンバーが青年会議所活動に取り組む動機を生み出し、組織の力となります。青年会議所では、一人の力でできることは限られています。札幌青年会議所で取り組む事業でも、日本青年会議所をはじめとする出向の機会でも、一人で成し遂げられることはひとつもありません。私たちは、青年会議所活動のあらゆる場面で、組織における誰かの理解や支援が存在することをあらためて確認する必要があります。そうした理解や支援に対して、感謝の気持ちを持ち、それを表現することこそがメンバー間の信頼関係を生み出し、組織力を強化してくれるのです。さらに、そうした組織力をもって、出向の機会を活かし、他団体や各地青年会議所との間で円滑な交流を進めることが札幌の未来にとって大きな力となるのです。

【持続可能な組織であるために】

青年会議所において、意思決定を行う際の会議の重要性はいうまでもありません。組織の意思決定過程における、会議のあり方、進め方、合意形成の方法は、青年会議所の運営を円滑にするばかりではなく、私たちメンバーが社業において活かすことができるトレーニングの場でもあります。

そして、個性あふれるメンバーが、その力を遺憾なく発揮するためには、自由討論ではなく、規律ある会議運営が必要不可欠です。現在運用されているメンバー向けの情報共有システムを見直し、メンバーがより容易に情報を取得できるよう機能を拡張し、包括的なツールに刷新することで、メンバーが情報にアクセスしやすくなり、より積極的に事業や例会に参加できる環境を整えることができます。

また、審査においてもデジタルツールやテクノロジーを活用することで運動を効率化し、情報共有とコミュニケーションの円滑化を図ることで、時代に即した組織へと発展させる必要があります。札幌青年会議所は、所属するメンバーからの貴重な会費によって運営されており、その運用については、費用対効果の検証は当然のこと、恣意的ではない適正かつ妥当な審査方法によって、審査されなければなりません。そして、会計の透明化と財務体質の健全化を図ることが、組織の持続的な成長を支える基盤を築きます。また、社会が高度なコンプライアンスを要求するようになり、法令遵守や内部規律の厳格化だけではなく社会常

識や社会的倫理にも反しないよう、リーダーとしてのあり方を追求します。

【最後に】

青年会議所活動以外での自分の立場と時間を忘れてはいけません。家族や会社の支えがあってこそ我々は安心して青年会議所運動を行えるのです。だからこそ、大事な時間を割いた分以上に自分自身が成長し、多くの仲間をつくることで、家族や会社に応援されるような環境づくりに努力をしていきましょう。それが時間づくりのトレーニングとなり、自分の人生の土台づくりとなるはずです。

私の信条の一つに「やらない後悔よりやる後悔」という考えがあります。たった一度の人生の中で、時には一度きりのチャンスということも多々あります。行動が毎回プラスに運ぶわけではありませんが、自分が自分であるために、決してこの考えが振れてはいけないと思っています。「やる」という行為は実はとても勇気が必要なことです。しかし青年会議所に入ったからには「やらない」という選択肢はなくしてほしい。できない理由を探すのではなく、やる理由を探そう。いつの時代においても好奇心と行動力が世の中を変えてきました。そしてそれは札幌青年会議所の歴史においても脈々と受け継がれ、すべてのメンバーがもち合わせていると私は信じています。誰かがやってくれるではなく、自分が率先して行動しましょう。札幌の未来を担う子どもたちのためにも、我々JAYCEEが頼れる背中をみせつつ、笑顔を絶やすことなく、ともに札幌の未来を築き上げてまいりましょう。